

四月二十八日。いわきオリーブプロジェクトのモデル農場に、小豆島へルシーランド株式会社から柳生敏宏社長、内海淳彦栽培担当リーダー、野村充史広報担当の三人が栽培指導に来てくださいました。一月下旬の来訪時、「いわきに合った栽培方法を一緒に確立していきますましよう」と継続的指導を英断してくださいました。百年以上の栽培歴史を持つ元祖・小豆島と、五年目の私たちの巧拙は比べようもありませんが、画期的なこのご縁で勇氣千倍です。

三月二十二日。地元のお食料を求めて自ら農家の

東北復興日記

93



NPOいわきオリーブプロジェクト理事
木田源泰さん

共感こそが必要な鍵

畑に出向き、お客さまは一日一組のスタイルを貫く、いわきの萩春朋シェフが「オリーブは塩をつまみ組み合わせると世界一の調味料になる」と明言。新作オリーブ麺にも注目いただいています。

三月八日。東京都中野区タウン誌「おこのみつくす」(藤原秋一編集長)が、なかの×いわき「オリーブのはばたぎプロジェクト」を立ち上げました。このメンバーが自ら大切に育てあげたい

わき産の挿し木苗を持参し、故郷のいわきに定植しました。四十人が畑でにぎやかに作業をし、自分の名前をつけて「里親」になるイベントでした。癒やし、喜び、交流など農業が多面的な魅力を持ち合わせていることをあらためて確認しました。

「箸よく盤水を回す」という言葉をかみしめています。継続はさまざまありますが、この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

わき産の挿し木苗を持参し、故郷のいわきに定植しました。四十人が畑でにぎやかに作業をし、自分の名前をつけて「里親」になるイベントでした。癒やし、喜び、交流など農業が多面的な魅力を持ち合わせていることをあらためて確認しました。

「箸よく盤水を回す」という言葉をかみしめています。継続はさまざまありますが、この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。